

小林 隆子



「戸田ヶ原 外来種の抜き取り作業」

所 在：さいたま市

荒川左岸の戸田市～さいたま市域の河川敷と見沼田んぼで動植物の調査を継続して行い、地域に残された植物の群落を守り育て、これを核とした里山づくりを提唱、実践しています。また、戸田市が進めている戸田ヶ原自然再生に計画段階から協力し、再生地に流域の湿生植物を移植・保護することで、町の原風景の再生を目指しています。

地域の希少動植物調査及び保護

～最前線の自然を守る活動～

受賞の主な取組

- ・戸田市の「戸田ヶ原自然再生事業」の検討会や推進連絡会議を経て、現地の自然再生に取り組んでいます。
- ・荒川総合運動公園から荒川彩湖公園間の動植物調査を継続して実施し、絶滅が危惧される植物群落やカエル類の保護を行っています。
- ・「ミニ里山・見沼」の実現に向け見沼田んぼの動植物の調査、地域植物群落の保全とカエル類の生息環境の整備のほか、さいたま緑のトラスト1号地（見沼田んぼ周辺斜面林）の植物調査を行っています。

取組をはじめたきっかけ

荒川の広い河川敷空間は、グラウンドやゴルフ場を利用する人々だけのものではないことに気づき、その在りようを考えたのが取組のきっかけになりました。その後、動植物の調査を開始し、田島ヶ原サクラソウ自生地で作業員を経験することで調査方法や維持管理の手法を学びました。

これからの展望

荒川の河川敷では何十年もの間、止むことなく河川工事が続けられてきました。今後も築堤や緊急河川敷道路、調節池の工事などが予定されています。奇跡的に残っている湿生植物の群落とともに、カエル類やヘイケボタルが安定して生存できる里山環境の保全を図り、メリハリある開発を求めて行きたいと思っています。



「戸田ヶ原 ワレモコウに添え木」



「戸田ヶ原 セイタカアワダチソウの抜き取り」

受賞して

マムシの多い河川敷での動植物の調査、湿生植物の群落に不法投棄された大量の産業廃棄物の分別と除去作業、戸田ヶ原自然再生では、市民ボランティアとヨシ原の中で 2mを超える外来種のオオブタクサを抜いて歩くなど、これまでの地道な活動を評価していただきましたことを嬉しく思います。